

わかる授業により児童の学習意欲を高める社会科学習指導 —授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫を通して—

日 部 貴 博¹⁾・山 口 陽 弘²⁾・石 川 克 博²⁾

1) 高崎市立東部小学校

2) 群馬大学教育学研究科専門職学位課程教職リーダー専攻

An Educational Guidance on a Social Studies Which Makes the Contents Understandable and Enhances Students' Learning Motivation : Through the Reflection Tasks Focusing on the Relations Between the Classes

Takahiro KABE¹⁾, Akihiro YAMAGUCHI²⁾, Katsuhiko ISHIKAWA²⁾

1) The Takasaki Toubu Elementary School

2) Program for Leadership in Education, Professional Degree Course,
Graduate School of Education, Gunma University

キーワード：学習意欲、社会科教育、振り返り活動（自己評価）、OPP（One Page Portfolio）シート

Key words : Learning Motivation, Social Studies, Reflection Tasks (self-evaluation), OPP (One Page Portfolio)

(2011年10月31日受理)

I はじめに

本研究の目標は、小学校社会科授業において、児童に授業間のつながりを意識させ、各授業の学習目標や学習の流れを明確にする振り返り活動を行えば、児童は授業がわかるようになり、学習意欲を高めることができるということを、実践を通して明らかにすることである。検証授業第3学年社会科「スーパーマーケットではたらく人」の授業プランの開発・実践を通して、本研究の有効性を確かめる試みを行った。

II 問題の所在—学習意欲とわかる授業—

児童の学習意欲を高めるにあたり、本研究では児童にとって「わかる授業」を行うことが大切であると考えた。児童の学習意欲を高める方法には、例えば映像資料や実物教材を用いた工夫、児童の諸感覚を發揮し

ながら楽しく取り組むことのできる体験的な活動の工夫などがある。

確かに、そうした工夫によって、学習への興味・関心を引き出し、児童の学習意欲を高めることができる。しかしながら、そこで高められた学習意欲は一時的なものにすぎないことが多い。また、そうした工夫が必ずしもわかりやすい授業へとつながっていない場合がある。そのため、学ぶことを楽しみたい、授業がわかるようになりたいと願う児童にとっては、わかる授業わかりやすい授業を行うことで、学ぶことの楽しさを日々実感できるようにすることが大切であると考えた。

したがって、児童の学習意欲を高めるためには、まず、児童にとって授業がわかることが大切であると考ええる。すなわち、授業がわかることにより、児童は学習の成就感や達成感、自らの学びの成長を実感する。その結果、児童の学習意欲が高まるだろうと仮説を立てた¹⁾。

III わかる授業の条件

わかる授業を行うにあたり、授業がわからない場合の原因について、2008年に実施された群馬県内における調査ⁱⁱを参考にした。調査結果によれば、授業がわからないと答えた児童生徒の多くが、「前の授業がよく分からなかったことが原因で、授業がわからなくなったことがあった」と答えている。これは、授業がわからないことに関するその他の原因の問いと比べると、最も大きい割合であった。

このことから、日々の授業において学習内容の確実な定着を促す指導が必要であるとともに、一人一人の学習状況を見取り、個別指導などを通して学習理解が不十分なままにしないことが大切である。また、授業内で前時の学習内容を想起させ、補足説明をするなどして、前時の学習と本時の学習との関連をつかませることが大切であると考えた。

また、筆者（特に第一著者）の経験から、もう一つ授業がわからない原因として挙げられることは、児童が本時の授業において「何について考えるべきか」「何を学びとればよいのか」ということが把握できていないということである。すなわち、これまでの学習と本時の学習とがどのように関連しており、本時の学習で「何について考えるべきか」「何を学びとればよいのか」といった学習目標や学習の流れが明確につかめていないために、授業がわからないと予想される。この点を解決することが、本研究における筆者（第一著者）の最大の問題意識であった。

“学ぶことにおいてもっとも重要なのは、自分の現状を知り、何をどう学べば自分自身をさらによりよい状態に導くことができるのか知ることである。—（中略）—そのためには、学ぼうとしている当該内容に関して、自分の何が既知であり、あるいは未知であるのかを明確にする必要がある。”ⁱⁱⁱと堀（2006）が述べているように、これまでの学習において何を学び、本時の学習では新たに何を学ぶべきなのかを明確につかみ意識することが大切である。

わかるということは“「わかっていること同士が結びつく」ということ^{iv}”であると佐伯（2008）が述べているように、授業ではこれまでの学習内容や生活経験などを想起させ、それらと本時の学習とが関連し合い結びついていくような学習を行っていく必要がある。本

時の学習がこれまでの学習と切り離されたものではなく、関連し合っていることが明確に意識される指導、すなわち、これまでの学習内容と本時の学習内容との共通点や相違点、対立点や矛盾点を明確にすることにより、本時の授業において「何について考えるべきか」「何を学びとればよいのか」ということが把握できると考える^v。このように、授業間のつながりを意識させることで、各授業の学習目標や学習の流れが明確になり、授業がわかりやすくなると考える。

そこで、本研究ではわかる授業の条件を、本時の授業において「何について考えるべきか」「何を学びとればよいのか」をしっかり把握させること、すなわち、児童が学習目標や学習の流れを明確につかむことができる授業であるとした。そのために、授業内でこれまでの学習を振り返る活動を、意図的に取り入れる試みを行う。そうすることで、たとえ前時の学習でわからない内容があったとしても、本時の学習の中で前時の学習内容をもう一度想起させ、前時の学習と本時の学習との関連をつかませることで、児童に目的意識を持たせるとともに、学習内容の確実な定着を図ることができると考えた。

IV 授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫

各授業の学習目標や学習の流れをつかませ、児童にとってわかる授業を行うために、本研究では授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫として、「既習内容や生活経験を意図的に想起させる分散的復習を考慮した授業構成」と、「学習過程を可視化して、各授業の学習目標や学習の流れを意識させるOPPシートの活用」の2点の工夫に焦点を当てた。

(i) 既習内容や生活経験を意図的に想起させる分散的復習を考慮した授業構成

児童に各授業の学習目標や学習の流れをつかませ意識させるためには、授業間のつながりを意識させることが大切である。しかし、大部分の児童は本時の学習に取り組むことが精いっぱいであり、これまでの学習と、本時の学習の位置づけを意識したり、あるいは必要ときに自らこれまでの学習を想起したりすることは、児童にとって極めて難しいことであると筆

者らは考える。

北尾(1990)は、“たとえ知識を持っていても必要なときに、その知識を想起することができず、そのためにその旧知識と新しい情報を関連づけることができないとき”に学習が理解できないと述べている。そして、“勉強のよくできる子は、最初の学習から現在の想起に至るまでの間に、その知識を何回となく想起しようとしている。ところが、できない子は、その間に一度も想起しようとしていない。この違いが理解力の差となる。”と述べている。

したがって、“できない子を救うためには、授業に弾力性をもたせ、時々以前の学習にさかのぼって質問する時間が大切であるといえる。また、子ども自身が、すでに習得した知識を後で何回かに分けて想起し、アレコレ考えをめぐらせる機会を持つように指導したい。このような、自己反省的な学習態度または思考の習慣を身につけさせることが、理解力を育てることになろう。”と述べて、分散的復習を考慮した授業づくりの重要性を指摘している。分散的復習とは、既習内容を想起することで、これまでに学習したことと新しい学習内容とを関連づけて理解しやすくする学習方法であり、既習内容の想起を何回かに分けて分散的に行うことによって、より一層学習内容の定着が促されるとされる。

以上のことから、児童に各授業の学習目標や学習の流れをつかませ意識させるためには、これまでの学習と本時の学習との関連や次時以降の学習の流れを意識させることができるように、本時の学習のねらいを達成するにあたって必要不可欠な既習内容を意図的に想起させる振り返り活動が必要である。単元構成、各単位時間の授業構成の中に、既習内容や生活経験を意図的に想起させる分散的復習を考慮した振り返り活

動を計画的・効果的に位置づけることにより、児童に学習目標や学習の流れをつかませ、わかる授業を行うことができる考えた。

(ii) 学習過程を可視化して、各授業の学習目標や学習の流れを意識させるOPPシートの活用

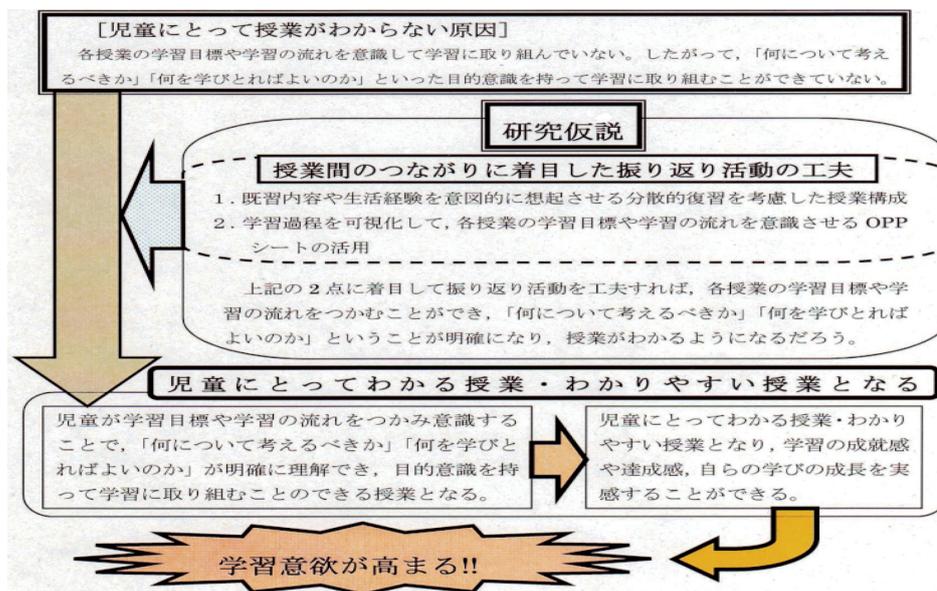
先に述べた分散的復習を効果的に行うことを可能にするのがOPPシートである。

OPP (One Page Portfolio) とは、“一枚ポートフォリオのシート、もしくはそれに記録された内容を含めたものをさす。”^{vi)} OPPシートに日々の学習内容を記録していくことにより、情意面だけでなく、認知面での自己の学びの変容を可視的に振り返ることができる。また、単元全体の学習を構造化した形で見渡すことができるため、単元全体における本時の位置づけがわかり、各授業の学習目標をつかむことができると考えた。

以上のように、授業間のつながりに着目した振り返り活動を通して、各授業の学習目標や学習の流れをつかませるとともに、学習内容の定着を促し、児童にとってわかる授業・わかりやすい授業を行っていきたいと考えた。これら2点の工夫を第3学年社会科「スーパーマーケットではたらく人」の授業に取り入れて実践し、研究の有効性を確かめた。

なお、本研究における学習意欲、わかる授業、授業間のつながりに着目した振り返り活動の関係については、以下の図1のようになる。

図1 学習意欲、わかる授業、授業間のつながりに着目した振り返り活動の関係図



V 検証授業実践 一第3学年社会科

「スーパーマーケットではたらく人」一

本研究内容をふまえて、検証授業第3学年社会科「スーパーマーケットではたらく人」の授業プランを開発し、実践した。全16時間のうち5時間目から16時間目の授業を実践した。本稿では、学習指導案などの授業の詳細は割愛し、本研究内容に特化した実践上の工夫を述べる。

(i) OPPシート「学びのきろく」の構成

OPPシートは主として4点を基本的骨子として構成されている。本実践においても、それら4点をふまえてOPPシート「学びのきろく」を構成し、以下図2のシートをA3版で用いた。

まず、学習の出発点として学習前の知識や考えを明確にする欄¹では、単元全体を貫く主発問として、「スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか?」と問いかけ記述させた。2点目の学習過程の学習内容を記述する欄²～⁹、¹¹では、学習進度に合わせながら、毎時の学習の要点を記述させた。3点目の学習の到達点としての学習後の知識や考えを明確にする欄は、¹の問いかけと同じ内容にして上下で見比べることができるように配置することで、学習前後の学びの変容を視覚的に確認することができるようにした。4点目の学習履歴を振り返り、自己の変容を意識化する自己評価の欄¹²では、「この学習を通して、あなたがどうかわりましたか?」と問いかけ記述させた。また、「学びのきろく」を書いてみて思ったことや考えたことについても記述させることにより、シート全体を振り返り、自己の学びの変容を明確に意識できるようにした。

(ii) 授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫の具体的手だて

授業実践における、授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫の具体的手だてをまとめると以下のようなになる。

まず「既習内容や生活経験を意図的に想起させる分散的復習を考慮した授業構成」においては、授業間のつながりを意識させることで単元全体における本時の位置づけや、本時の学習で「何について考えるべきか」

「何を学びとればよいのか」ということの焦点を絞り、本時の学習目標や学習の流れを明確にするために、授業の導入の活動や、授業内の発問を工夫した。

具体的には、毎授業の導入時や前半部の学習において、本時のねらい達成に不可欠な既習内容を想起させることができるように、「学びのきろく」や学習シートなどへの児童の記述内容を見取り、4～5人を意図的に指名して発表させた。そして、「学びのきろく」を読み返ししながら、発表内容に合わせて既習内容を想起させる問いかけや、既習内容に関する補足説明を行ったり、生活経験を想起させて学習内容と日常生活とをつなげる問いかけを行ったりした。また、授業内において、どのような既習内容や生活経験をいつ、どのように発問して想起させるのかということを確認に計画して、指導にあたった。

次に「学習過程を可視化して、各授業の学習目標や学習の流れを意識させるOPPシートの活用」においては、OPPシートへの記述を促す発問とOPPシートを用いた振り返り活動を工夫した。なぜなら、OPPシートを初めて用いる児童に対して、シートに記述させる内容を具体的に指導し、OPPシートに慣れさせる必要があったからである。

そのため、学習の要点を板書し、それをシートに書き写させたり、記述しやすいうように書き出しを予め伝えたりして、シートには各授業の学習の要点をまとめるということを理解させるようにした。また、授業の導入時や前半部の学習で、これまでの学習を振り返り、本時の学習目標や学習の流れを明確に意識させるために、毎時の学習内容をまとめたOPPシートを用いて振り返ることで、学習過程が可視化され、より授業間のつながりを意識させることができると考えたからである。なお、「学びのきろく」への記述内容計画として用いた【「学びのきろく」(OPPシート)をもとにした児童の学習過程案一記述を促す各授業の問いと予想される児童の記述例一】を以下図3に示した。

このように、OPPシートに毎時の学習の要点を記述させるだけでなく、その記述内容を振り返りながら、既習内容を想起して本時の学習目標や学習の流れを明確にする時間を授業内でとることで、学習内容の定着を促すことができた。

図2 「学びのきろく」(OPPシート)

社会「学びのきろく」 スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか？ 調べよう！！

今日の「めあて」をふまえて、学習した中で一番大切なことや、学習してわかったことを書きましょう

1 (10/5) 【学習のスタート】
Q.スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか？

2 (/ /)

3 (/ /)

4 (/ /)

5 (/ /)

6 (/ /)

7 (/ /)

8 (/ /)

9 (/ /)

10 (/ /) 【学習のまとめ】
Q.スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか？

11 (/ /) 【学習をふり返ろう】
Q. この学習でどんなことがわかりましたか？

この学習を通して、あなたがどうかわりましたか？

☆「学びのきろく」を書いてみて、思ったことや考えたことを自由に書こう！！

図3 「学びのきろく」(OPPシート)をもとにした児童の学習過程案

「学びのきろく」(OPPシート)をもとにした児童の学習過程案一記述を促す各授業の問いと予想される児童の記述例

11 (11/2) ⇒わたしたちの買い物は、日本のかく地や外国とつながっている。

社会「学びのきろく」 スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか？ 調べよう！！

今日の「めあて」をふまえて、学習した中で一番大切なことや、学習してわかったことを書きましょう

1 (10/5) 【学習のスタート】
Q.スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか？
チラシをくぼっている。品物のねだんを安くしている。そうじをして店をきれいにしている。
単元を置く本質的な問いについて、学習前・後の記述内容を振り返ることで、学習の理解度や思考の深まりが可視化され、自らの学びの成長を実感することができる。

2 (10/6) スーパーで働く人の工夫を見つけて書きましょう。
きかいを使って、肉や魚をラップしている。たくさん品物を売っている。
授業間をつなげる振り返り活動の工夫
②と③の学習をつなげる授業内の学習指導の工夫として、③の導入時に数人の児童に②の記述内容を発表してもらい、③のねらいを達成するために必要な既習内容を想起させる。各授業間でそうした振り返りを行うことで、本時の学習目標を意識化し、見通しを持って学習できるようにする。

3 (10/12) シートを見て、今日の授業で学んだことを書きましょう。
きかいを使ってラップすることは、作業を早く正かしくするためと、品物を新せんにたもつためだとわかった。

4 (10/13) 「スーパー見学では、～と～を見てきます(聞くようにします)」と書きましょう。
スーパー見学では、はたらいている人の様子と買物をしている人の様子を見てきます。はたらく人の気持ちを聞いてみたい。

5 (10/15) スーパー見学で、一番心にとったことを書きましょう。
スーパーでははたらく人は、それぞれくわりがあって、がんばっていた。冷とうの中はとて寒かった。アイスがたくさんあった。店のうらの様子が見られてよかった。

6 (10/19) 今日の学習では、スーパーはごみのリサイクルに取り組んでいることがわかりました。黒板を写してまとめましょう。
スーパーでは、ごみをへらし自ぜんやまの美しさをまもるために、リサイクルにとりこんでいる。

7 (10/20) 今日の学習を振り返って、お客さんがスーパーに行く理由をまとめます。黒板を写して下さい。
お客さんは、新せんでおいしい品物や日用品を買うために、スーパーに行く。スーパーはお客さんの気持ちを考えられている。

8 (10/26) 買い物インタビューの結果を見て、「上手な買物をするためには・・・」と書きましょう。
上手な買物をするためには、チラシを見て新せんで安い品物を買うようにする。ひつようなものだけを買うように、買いたい物をメモする。

9 (10/25) 今日の学習では、スーパーの工夫は買う人の願いとつながっていることがわかりました。黒板を写してまとめましょう。
スーパーの工夫は、買う人のねがいとつながっている。スーパーとお客さんはともに支え合っている。

10 (10/27) 学習を振り返って、コンビニのよいところをまとめましょう。黒板を写して下さい。
コンビニのよいところは、24時間開いているところと、いろいろな品物が売られているところ。きょうな買物のときでもべんりである。

11 (11/9) 【学習をふり返ろう】
この学習を通して、あなたがどうかわりましたか？
1では、スーパーの工夫はチラシを出して安売りを知らせることだけだと思っていた。しかし、10では、スーパーではきかいを使ってラップをしたりして、早く正かしくに作業をしていることを知った。また、新せんで安心・安全な品物を売るようにして、お客さんのねがいをかなえる工夫をしていた。この学習をいかして、品物のねだんやしよみきげんに気がつけて、上手な買物をしていきたいと思ひます。

☆「学びのきろく」を書いてみて、思ったことや考えたことを自由に書こう！！
まい回学んだことを書いたのので、いつどんなべん強をしたのかが思ひ出せた。1と10をくらべて、自分のせい長をかんじることができた。これからは、学習をふり返ったり、ノートをまとめることをしっかりやていきたいと思ひ。

VI 研究の成果—研究仮説の有効性—

本研究仮説の有効性を検証するにあたり、検証目標すなわち、研究成果として目指す児童の姿を以下の2点とした。

- 検証目標(研究成果として目指す児童の姿)
- ①「学習目標や学習の流れをつかみ、授業がわかっている姿」を調べる。
 - ②「授業がわかり、成就感や達成感を実感して意欲的に学習に取り組んでいる姿」を調べる。

そして、2点それぞれの検証目標に対して、検証の視点と検証方法を計画して、検証した。検証方法としては、「学びのきろく」の記述内容分析と授業前後のアンケート調査分析、そして補足的に映像記録からわかる授業内の発話分析を行った。以下の図4に検証計画の詳細を示した。

図4 検証目標・検証の視点・検証方法の関連

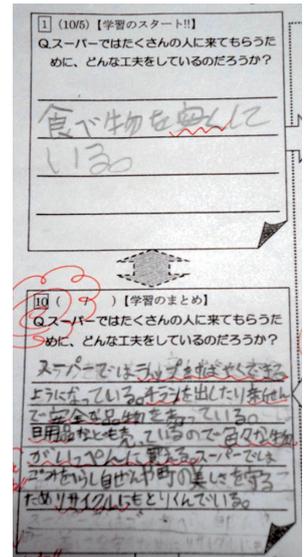
検証目標	検証の視点	検証方法
①「学習目標や学習の流れをつかみ、授業がわかっている姿」を調べる。	A: 学習目標をふまえて、学習内容を理解しているかどうか。	a: 「学びのきろく」の記述内容 記述内容より、学習目標をふまえて、学習内容を理解していると思われる記述をしている児童を良い状況として捉える。特に、 1 と 10 の記述内容の対比と 12 の記述内容を重視して学習内容の理解状況を調べる。
	B: 学習内容を自分なりにまとめ、成就感や達成感、学びの成長を実感しているかどうか。	b: 「学びのきろく」(12)・「学びのきろく」を書いてみて思ったことや考えたこと)の記述内容 o: 事後アンケート「授業理解」の評定数値と評定理由の記述内容
②「授業がわかり、成就感や達成感を実感して意欲的に学習に取り組んでいる姿」を調べる。	C: 学習へのやる気や書いたり発表したりすることへの意欲が高まったかどうか。	d: 事前事後アンケート「やる気」「書くこと」「発表すること」の評定数値の比較
	D: 学習内容をまとめたり振り返ったりすることの大切さを実感しているかどうか。	e: 事前事後アンケート「まとめること」「振り返り」の評定数値の比較と評定理由の記述内容、「学びのきろく」(「学びのきろく」を書いてみて思ったことや考えたこと)の記述内容



上記の検証計画にもとづいて、第3学年社会科「スーパーマーケットではたらく人」の授業実践を検証した。検証結果の一部を以下に示す。

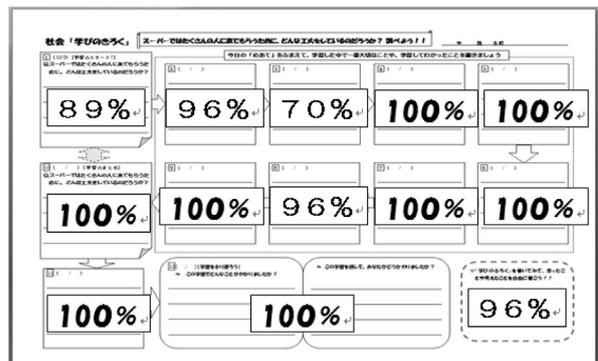
まず、授業の理解状況については、「学びのきろく」の記述内容から、ほぼ全児童が毎時学習内容を理解している様子を見取ることができた。

児童の記述例の一部を示すと、「スーパーではたくさんの人に来てもらうために、どんな工夫をしているのだろうか?」の問いに対して、例えばA児は**1**で「食べ物を安くしている。」と記述していたが、同様の問いかけの**10**では「スーパーでは、ラップをすばやくできるようになっている。チラシを出したり新せんで安全な品物を売っている。日用品なども売っているので色々な物が



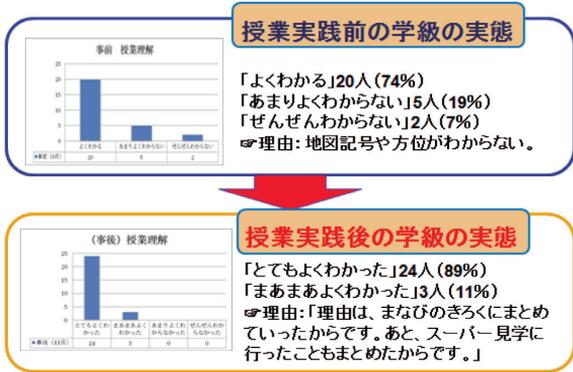
いっぺんに買える。スーパーではごみをへらし自ぜんや町の美しさを守るため、リサイクルにもとりくんでいる。」と記述することができていた。この児童のように、「学びのきろく」**1**の記述内容と比べて、「学びのきろく」**10**の記述内容の方が内容が豊富で、記述量も増えた児童は全児童27人(100%)であった。なお、学習目標をふまえて学習内容を理解していると判断できる、児童の記述の達成率を示すと以下の図5のようになる。

図5 各記述欄における、児童の記述の達成率



また、「授業理解」についての事前事後アンケート結果を比較したところ、児童にとってわかりやすい授業を行うことができたと判断できた。

図6 「授業理解」についての事前事後アンケート結果の比較



次に、授業がわかることにより、学習の達成感や達成感、自らの学びの成長を実感し、学習意欲が高まっている姿を、90%以上の児童から見取ることができた。これは、特に「学びのきろく」1と10の記述内容の比較や、学習のまとめとなる12の記述内容から顕著に見取ることができた。

例えばB児は「学びのきろく」の1を書くことができなかったが、学習の成果が表れる10では「スーパーの人はきかいでラップをしたり、ごみをへらして自ぜんや町の美しさを守ったり、買う人のねがいがつながっていて、一番やすいものを目だつようにする。」と記述し、学習したことを自分の言葉でまとめることができていた。また、12の「この学習を通して、あなたがどうかわりましたか?」の問いに対しては、「初めはスーパーの工夫がわからなかった。しかし、この学習できかいでラップをしたり、リサイクルコーナーができたりいろいろな工夫をしている。これからはしんせんき、しょうみきげん、ねだんに気をつけて買い物をしていきたいです。」と記述していた。「学びのきろく」を書いてみて思ったことについては、「学びのきろく」のよいところは書きやすいのと、ふりかえやすいことです。今ふりかえると、あのときはこんなべんきょうをしたんだなと思いました。」と記述していた。これらの記述内容から、B児は授業がわかることにより、学習の達成感や達成感、自らの学びの成長を実感し、学習意欲が高まっていると判断した。

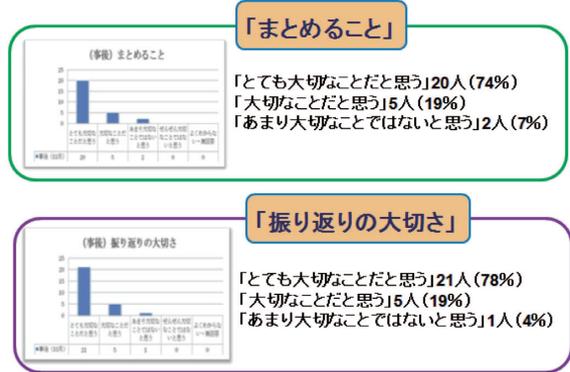
図7 B児の「学びのきろく」



また、事前事後アンケートの結果や「学びのきろく」を書いてみて思ったこと」の記述内容から、大部分の児童に学習の仕方として、学習内容を書いてまとめることの大切さや、学習を振り返ることの大切さを気づかせることができた。それは以下の図8のアンケート結果や、児童の記述内容から判断できた。例えばC児は「わすれるからノートにうつしとけばまたふりかえられるからです。」、D児は「りゆうは前に学習したことをもう一度ふりかえると、わすれたことがまたわかるからです。」、E児は「まなびのきろくはすらすらかけるし前のべんきょうしたこともふくしゅうできるからやりやすいです。」と記述していた。

本授業実践では、単元指導内容の特性から、品物売る販売者の工夫や努力、品物を買う消費者の工夫や願いなど、地域の人々の販売の仕事に関連する様々な側面を学習していくにあたって、学習内容を整理し可視化しながら、授業間のつながりを意識した振り返り活動を積極的に行うことが必要不可欠であった。そのため、学習したことを網羅的にノートにまとめていく

図8 「まとめること」「振り返りの大切さ」についての事後アンケート結果



のではなく、1枚のシートの限られた記述欄に、毎時学習の要点を記述していったことが学習内容の確実な定着に効果的であったと考える。また、「学びのきろく」を用いたことによって、学習の仕方として、学習内容を書いてまとめることの大切さや、学習を振り返ることの大切さに気づかせることができたと考えられる。

以上のことから、授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫を行ったことは、児童にとって各授業の学習目標や学習の流れが明確になることにつながり、わかりやすい授業を行うことができた。そして、授業がわかることによって、児童は学習の達成感や達成感、自らの学びの成長を実感し、学習意欲を高めることに結びついたと考える。本研究仮説が、有効であることを明らかにすることができた。



VII OPPシートの斬新的活用とその成果

本研究でのOPPシートの活用における独自の試みは、OPPシートに学習内容を記録することだけでなく、OPPシートの記述内容をもとにした振り返り活動を授業内に効果的に組み込んだことにある。

OPPシートを用いた実践例におけるOPPシート活用のねらいは、大きく以下の3点である。

1点目は、学習目標を明確にして、児童に学ぶ意味を自覚させることである。OPPシートを用いることで、教師の指導目標と児童の学習目標を明確にし、可視化できるようにすることで、目的意識を持って学習を進めることができるようにするのである。

2点目は、学習内容を記録することで、知識の定着を促すことである。また、学習前後の自己の学びの変

容を視覚的・客観的に振り返り自己評価することを通して、メタ認知能力を育成することである。

3点目は、教師によるOPPシートの活用の仕方として、シートの記述内容から児童一人一人の学習状況を見取り、個別指導の手だてとすることである。

こうした実践例からは、これまでの学習を振り返るためのツールとして、OPPシートが授業内で活用される場面や手法は具体的に明らかにされていない。OPPシートは教科・単元に応じて様々に工夫されて用いるものであるからこそ、一定の活用法が示されることは少ないものと考えられる。

しかし、本実践では、OPPシートをもとにした授業間のつながりに着目した振り返り活動を授業内に組み込んだことで、以下の4点の成果を得ることができた。

1点目は、学級全体に友だちの発表を聴き合う雰囲気を作り出すことができたことである。自分が発表することだけに満足してしまい、友だちの発表に無関心になってしまう児童が多い中、友だちの発表を聴こうとする姿勢を養い、聴き合う雰囲気を作り出すことができた。また、OPPシートの発表を通して、より一層シートの記述に取り組む意欲を高めることができた。

2点目は、ノートなどに学習内容を書いてまとめることや、これまでの学習を振り返ることの大切さに気づかせることができたことである。授業実践後のアンケート結果から、約90%の児童が学習内容を書いてまとめることや学習を振り返ることが大切であると選択し、その理由についても記述していた。学習内容を書いてまとめることや、これまでの学習を振り返ることの意義を見出させることができ、そうした学習の仕方を学ばせることができた。

3点目は、一人一人の児童の興味・関心や学習の理解状況を把握することができたことである。そして、授業内で児童の学習状況に応じた補足説明や個別指導ができたことである。OPPシートの記述内容からは児童の情意面だけでなく認知面を見取ることができる。記述内容と授業内の児童の発言や態度とを照らし合わせて、児童の学習状況を把握しようと努めることにより、OPPシートを使用しない場合と比較すると、格段に児童の興味・関心や学習の理解状況に応じた授業づくりができるようになった。

4点目は、授業構成に際して、OPPシートをもとに学習過程案を作ることを通して、学習する児童の立場

に立って授業づくりができたことである。教えるべきことを授業時間内でいかに効率よく効果的に教えるかという教師の独りよがりな授業計画ではなく、児童の思考過程に寄り添った丁寧でわかりやすい授業づくりができるようになった。

このように、OPPシートの特徴を活かしながら、授業内で効果的に学習と結びつけることにより、先行実践例には見られなかったOPPシートの活用場面や手法を明らかにすることができた。そして、OPPシートの記述に飽きさせずに意欲を高めたり、友だちの発表を聴き合う姿勢を養ったり、児童一人一人の学習状況に応じた適切で効率的な指導ができるようになった。

VIII 今後の課題

(i) 研究の理論面の課題

本研究における理論面の課題として、以下の2点が挙げられる。

1点目は、授業がわかっても、学習意欲は高まらない児童生徒がいる場合が考えられることである。本研究では、授業がわかれば学習への成就感や達成感、自らの学びの成長を実感して、学習意欲が高まるであろうという想定のもとで児童にとってわかる授業・わかりやすい授業を行うことを心がけた。そして、実際に小学校3年生の児童の大部分は、授業がわかることによって、学習することへの意欲が高まっている様子を見取ることができた。しかしながら、数人の児童はそうした姿が十分に見られなかった。学習内容によっては、たとえ授業がわかったとしても、学習することが苦痛に感じ、授業がわかる・わからないに関わらず、学習意欲を高めることはできない場合があると考えられる。

2点目は、学習目標がわかっても、学習の意義を見出せない児童生徒がいる場合である。本研究では、各授業の学習目標や学習の流れを意識すること、すなわち、「何について考えるべきか」「何を学びとればよいのか」といった目的意識を持って学習に取り組めば、授業がわかるであろうと想定している。また、目的意識をしっかりと持つことで、学習意欲も高まると想定していた。しかし、本時の授業で「何について考えるべきか」「何を学びとればよいのか」ということはわかっていても、そこに学習の意義を見出せなければ、学習意欲

を高めることはできないと考えられる。授業がわかることは児童の学習意欲を高める上で不可欠であるが、とりわけ、学習の意義を見出させる指導の工夫もまた重要であると考えられる。

(ii) OPPシートの効果的活用に向けての留意点

本研究では、OPPシートを用いたことで、よりよい研究成果を得ることができた。しかしながら、OPPシートがいつどんな学習場面においても有効であるとはいえないと感じている。特に、OPPシートを活用する際には、シートへの記述を促す発問内容の吟味や、シートの記述に飽きさせない配慮が重要である。また、OPPシートを用いることや記述させることを目的とせず、あくまで補助的な手だてとして位置付けることや、児童生徒の実態に応じてシートを修正・改善していくといった可変的なシートの活用が大切である。さらに、OPPシートを初めて用いる場合や書くことを苦手とする児童生徒がいる場合には、記述の仕方に慣れさせる特別な指導が必要である。

したがって、OPPシートを用いる際には、OPPシートを用いる目的・育てたい資質や能力・シートの構成・記述を促す発問内容・授業のいつどの場面で記述させるかなどを明確に計画して活用していくことが大切である。

IX おわりに

本研究を通して、本研究仮説が有効であることを確認することができた。また、授業間のつながりに着目した振り返り活動の工夫として用いたOPPシートの活用についても、その特長を活かしながら効果的な活用方法を見出すことができた。一方で、本研究の課題や改善点も多く残っているので、今後も追究していきたい。本研究の成果を十分に発揮し、児童生徒にとってわかる授業、学びがいのある楽しい授業、学びの成長を実感できる授業を行っていききたいと思う。

X 主要参考文献・引用文献

- 北尾倫彦『意欲と理解力を育てる』ラポール双書, 1990
佐伯胖『「わかる」ということの意味 [新版]』岩波書店, 2008
佐藤真 編『各教科などでの「見通し・振り返り」学習活動の充

- 実—その方策と実践事例—』教育開発研究所，2010
- 渋谷憲一編『指導と評価の間 学習意欲を育てる教育指導』ぎょうせい，1990
- 辰野千壽『科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法』図書文化，2009
- 次山信男，福岡県大木町立木佐木小学校『小学校社会科実践課題別研究「振り返り」のある学習—自己評価能力の育成—』東洋館出版社，1994
- 堀哲夫，山梨大学教育人間科学部附属小学校『子どもの成長が教師に見える 一枚ポートフォリオ評価小学校編』，日本標準，2006
- 堀哲夫，進藤聡彦，山梨県上野原市立厳中学校『子どもの成長が教師に見える 一枚ポートフォリオ評価中学校編』，日本標準，2006
- 【注】**
- i 辰野は、子どもの能力を考えて「わかる授業」を行い、成功経験をさせるようにして成功感を味わわせることが学習意欲を高めると述べている。(辰野，pp.66-73) また、渋谷は“「うまくいった」という成功感は自信を生み、「僕だってやればできる」という自信は、勉強への「張り合い」を生む。そして、「今度も成功しそうだ」という「成功の見込み」が「やる気」を高めてくれるのである”と述べ、“成功感や満足感は子どもに自信と向上心を与え、学習意欲を高める”と述べている。(渋谷，pp.306-309)
- ii 群馬県教育委員会『群馬県「確かな学力」向上計画推進資料 意識調査の結果から見えた授業を変える12の提言』2009、この調査は、抽出された県内約5%の小・中学校の5年生(898人)及び中学2年生(931人)を調査対象としており、2008年の7月に実施されたものである。
- iii 堀哲夫，山梨大学教育人間科学部附属小学校，p.20
- iv 佐伯，p.153，なお、同様に藤澤も“意味を理解して記憶したものは、他のことと関連づけたり、大きな体系の中での位置がわかっていると、さらによく憶えられるようになります。—(中略)—学習するときにはすでに知っていることと結びつけながら、意味的ネットワークを作るようにしていくことで、知識を利用することができるのです。”と述べ、新しい知識は、既存の知識網に統合されると憶えやすくなると説明している。(藤澤伸介，『ごまかし勉強上学力低下を助長するシステム』新曜社，2003，pp.33-34)
- v 北尾は、対立点や矛盾点を明確にする問題提示によって、「何について考えるべきか」「何を学びとればよいか」という焦点をしばることができるとし、学習課題を意識させることは自ら学ぼうとする意欲を生むと述べている。(北尾，pp.40-44)
- vi 北尾，pp.84-86
- vii OPPは堀哲夫が開発したものであり、本研究ではOPPの理論や実践の様子が詳しく紹介されている『子どもの成長が教師に見える 一枚ポートフォリオ評価小学校編』と『子どもの成長が教師に見える 一枚ポートフォリオ評価中学校編』などを参考にした。

(かべ たかひろ・やまぐち あきひろ・いしかわ かつひろ)